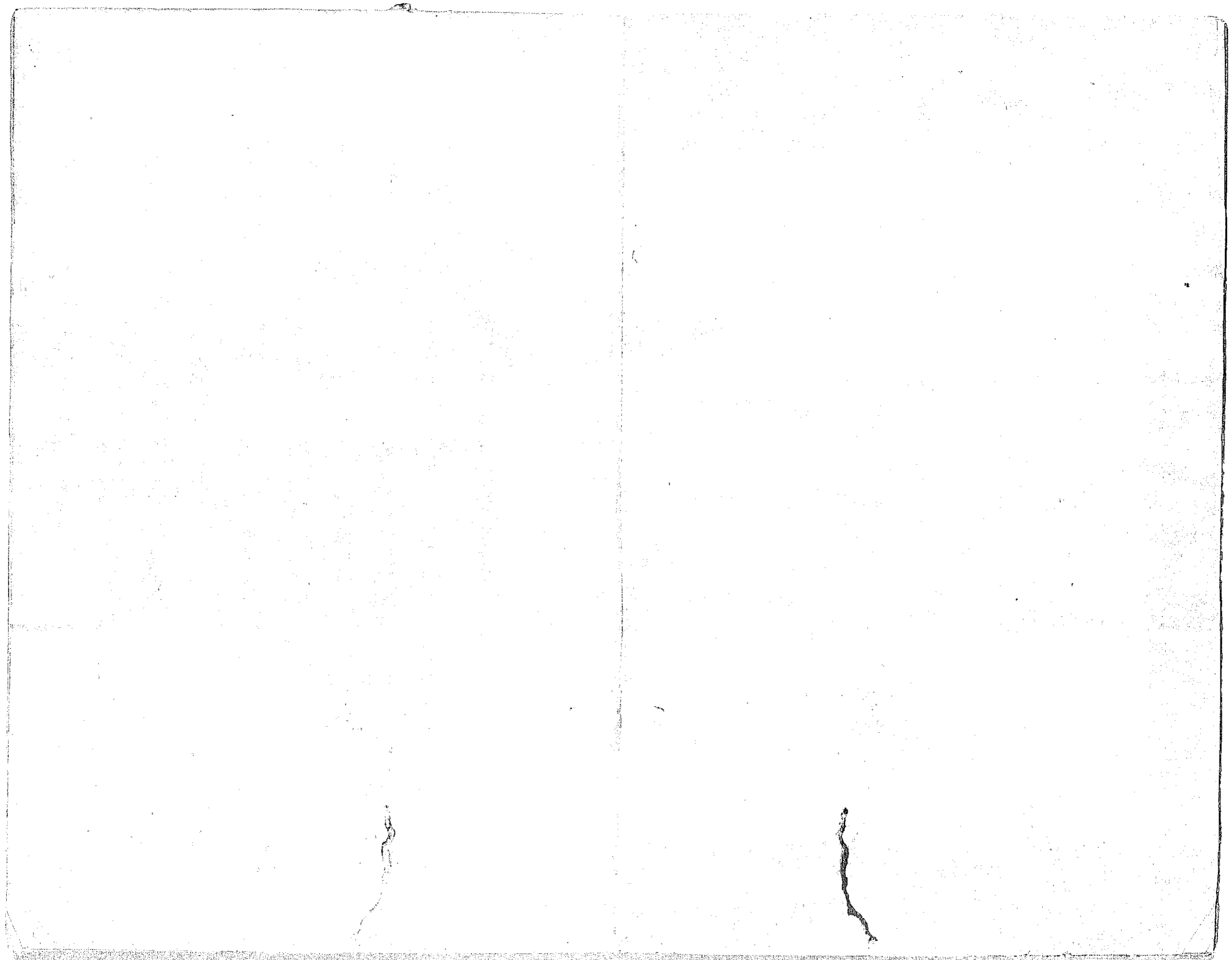


三和録

下





家傳雅書內拔書式古氣足後希三疑私考

足個系門入皇勝公而母公三九敬一尾樣八天物盡

感身之七少孕准別 皇德公而後也 月日元三月六昔也未

大在河之山合惣荒川殿皇後友有之 田安稻新之章

右少後之少爾 足勝公三年石 荒川六品其帝及廿三石也

田安稻新之章

一田安地过府年曆康保長保年間山書城後管因

古田道灌入道跡統奇異有之志之智信也

御紀燒其石具公扇紅之也

妙見

此殿本若曰於所多子神位

愛宕

傳奈津火産靈命
木所立御座及御宿石
傳之若福魂瓶居

三江相殿

南地家老岩大體院
其人所多子神位
大正四年御事

福齋

右老岩山寺位本堂上每年

御代本勸院

神白鉢主備 定良高代 主守 松尾

老若山長床坊書有之字

正保二己酉年

一浪書及 素念二丸棟部及 山初穂奉南於

出合 合上

一銀書及 素念二丸棟部及 山初穂奉南於

右山家中

一山初穂

新海助島及

一山初穂

永井庄屋及

一合更

松年大寺及

一合更

公田寺島及

一山初穂

其年家島及

正川大五日
一青洞指家及

松年鐵中寺信出重出伝伝

一銀書及

素念二丸棟部代本内知及島及

一山初穂

素念二丸棟部代本

一山初穂

松年鐵中寺信出重出伝伝

山初穂

一金百匁

中

杉年大子及

一四切税

杉年大子及

一四切税

杉年大子及

一四切税

杉年大子及

一銀百匁

杉年大子及

享保十三戊申九月

長床坊

明曆四年金匁

杉年大子及

杉年大子及

附金幣

杉年大子及

右三社白川

杉年大子及

杉年大子及

杉年大子及

杉年大子及

杉年大子及

杉年大子及

杉年大子及

御書出 別當に宛てては、
御氣之 一 奉州 島田中 御代奉書
有 古徳院 二 書 二 儀 一 信徳の行状
御前代 通正 九 御 御代 奉書 全書
との筆 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十
御代 奉書 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十
御代 奉書 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十
御代 奉書 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

右布言 因念 無原 元暦 侍 右 御代 奉書 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十
一 明見 秘書 御代 奉書 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 明見 秘書 御代 奉書 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十
御代 奉書 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

新初化神降臨之事

新初化五右衛門徳山川願の事
神降年曆慶長九年
正月神家共同八亥卯の月同日祭
神家譜の事
八ヶ保の事
下七保邊の事

右神家譜通九年付
是徳公の事
神家譜通九年付
神家譜の事
上詣今迄の事
上詣今迄の事
上詣今迄の事

初化神降臨の事
神降年曆慶長九年
正月神家共同八亥卯の月同日祭
神家譜の事
八ヶ保の事
下七保邊の事

一 初化神降臨の事
神降年曆慶長九年
正月神家共同八亥卯の月同日祭
神家譜の事
八ヶ保の事
下七保邊の事

出城岸前... 儀出... 國要... 法古
知... 法... 書... 書... 慶長... 年

一 宣... 慶長... 年

慶長... 年... 宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

慶長廿六七... 宣... 慶長... 年

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

烈祖成積
云... 長... 十...
己... 年...
三月... 九... 日... 入...
朝... 謝... 蘇... 年...
拜... 右... 通... 衛...
大將... 一... 喜... 音...
神祖... 還... 伏...
見... 于... 六... 日... 勅... 下... 宣... 長... 七... 月... 廿... 四... 日... 宣... 長... 廿... 六... 年... 宣... 長... 廿... 七... 年... 宣... 長... 廿... 八... 年...
使... 于... 世... 子... 秀... 忠... 公... 將軍... 宣... 長... 廿... 七... 年... 宣... 長... 廿... 八... 年...
為... 內... 大臣... 補...
洋... 領... 宣... 長... 廿... 七... 年... 宣... 長... 廿... 八... 年... 宣... 長... 廿... 九... 年... 宣... 長... 卅... 年... 宣... 長... 卅... 一... 年... 宣... 長... 卅... 二... 年... 宣... 長... 卅... 三... 年... 宣... 長... 卅... 四... 年... 宣... 長... 卅... 五... 年... 宣... 長... 卅... 六... 年... 宣... 長... 卅... 七... 年... 宣... 長... 卅... 八... 年... 宣... 長... 卅... 九... 年... 宣... 長... 卅... 年...

宣... 慶長... 年... 宣... 慶長... 年

征夷大将軍

人稱 神祖

曰大御所是

日松平

定綱為

越中守

以是見則

御位官

月日詳

今年京

都上供奉

之相下

右 後中宗女

御孫

以年

大以年長同

阿比

有山

佐

七

一 所 曾 後 之 軍 乞 又 為 長 十 七 乙 十 二 月 日

象 席 公 命 後 野 臣 少 將 長 為 公 所 後

所 樂 入 所 象 諸 物 今 年 所 心 十 四 乙 今 乙 乙 九 考 乙 乙

所 心 十 四 乙 七 所 曾 後 野 臣 事 所 甲 十 似 乙 似 乙 似 乙 似 乙

家 乙 法 廣 所 院 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

大 於 院 官 所 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

且 長 政 公 所 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

乙 所 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

所 大 婦 樣 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

一 乙 德 國 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

所 羊 年 十 八 乙 國 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

右 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

且 山 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

乙 年 間 道 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

二 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

今 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙

口初申澤田庄之方石河原領之公領也其五
 一 魚川河原北河原領之申元領也其六 相繼遠列魚川
 河原領 住吉郡原庄方領之元領河原領申年廿七申領
 之元領 通出化河原領 月休夜申山通一 村田遠一
 河原領 村田遠一 村田遠一 村田遠一 村田遠一
 百世家以遠一 村田遠一 村田遠一 村田遠一 村田遠一
 寫之當其上皆皆遠一 村田遠一 村田遠一 村田遠一 村田遠一
 村田遠一 村田遠一 村田遠一 村田遠一 村田遠一
 元 村田遠一 村田遠一 村田遠一 村田遠一 村田遠一
 仁後新町法及 河原領 河原領 河原領 河原領 河原領

此之申之河原領之申元領之申元領之申元領
 宣和元年二月三日

申元月三日

河原領 河原領

申年利町法及 河原領 河原領 河原領 河原領 河原領
 宣和元年二月三日

元和六年 申十月三日

大岡 申元領 河原領
 宣和元年二月三日

河原領

右ノ書門町ノ合新町庄屋今有ノ御書見
 御書名ノ合新町庄屋ノ御書見
 好古書ノ合新町庄屋ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見

右ノ書門町ノ合新町庄屋今有ノ御書見
 御書名ノ合新町庄屋ノ御書見
 好古書ノ合新町庄屋ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見
 御書ノ元祖ノ御書見

公之志不絕也... 小滿... 平... 秋... 初... 陽...
 法... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽...
 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽...
 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽...
 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽...
 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽...
 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽...
 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽... 陽...

此類... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右...
 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...
 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...
 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...
 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...
 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...
 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...
 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...
 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...
 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左... 右... 左...

奉奇進

六神宮所供 宋楷解
書如例

右宮後有奉為

天樹女德兼家松

私預殊抽身再謹

前願狀如併

寬永二年

上月廿八日 轉守
定綱

德胎院所坊

定隆北即德胎院 書字

為子 武丁及
武丁及 武丁及武丁及

本寺 武丁及
武丁及 武丁及武丁及

武丁及武丁及

五月二十

松平敬中守

由胎院所坊

右法 武丁及
武丁及 武丁及武丁及

武丁及武丁及

武丁及武丁及

一 武丁及武丁及

武丁及武丁及

武丁及武丁及

此や山無用を以て起りて、白雲を以て、乃ち其の象徴
一統を為す所の古くは、佛の如く、古くは、佛の如く、
一、或るの如く、一、其の如く、一、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

定佛の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、
其の如く、其の如く、其の如く、其の如く、

義之仁也... 能之也... 果之也... 孝之也... 忠之也...
今曰家... 有之... 治也...
治也... 治也... 治也...
治也... 治也... 治也...
治也... 治也... 治也...

身之也... 忠之也... 孝之也... 義之也... 仁之也...
忠之也... 孝之也... 義之也... 仁之也...
忠之也... 孝之也... 義之也... 仁之也...
忠之也... 孝之也... 義之也... 仁之也...
忠之也... 孝之也... 義之也... 仁之也...
忠之也... 孝之也... 義之也... 仁之也...

公常俊... 治承元年... 六月

与... 治承元年... 六月

治承元年

... 治承元年... 六月

右... 治承元年... 六月

与... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

... 治承元年... 六月

年月日... 丁城... 庚... 庚... 庚...
 丁城... 庚... 庚... 庚...
 丁城... 庚... 庚... 庚...
 丁城... 庚... 庚... 庚...
 丁城... 庚... 庚... 庚...

上... 庚... 庚... 庚...
 表... 庚... 庚... 庚...
 北... 庚... 庚... 庚...

八... 庚... 庚... 庚...

坪... 庚... 庚... 庚...

右... 庚... 庚... 庚...

左... 庚... 庚... 庚...

八... 庚... 庚... 庚...

一... 庚... 庚... 庚...

一... 庚... 庚... 庚...

一... 庚... 庚... 庚...

一... 庚... 庚... 庚...

一... 庚... 庚... 庚...

一... 庚... 庚... 庚...

一 滝山城山道 同寺堂中 山麓 山北の方

一 洋行下 同町 二里 山麓 山北の方

八月十六日

本寺に松文法元祖西地甚意為物所引 主寺山麓南麓
永一 寺月 山麓 山北の方 同十六日 晩年書
抄 定徳公信奉之 東邦

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書
有 山麓 山北の方 同十六日 晩年書
山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

一 系 山麓 山北の方 同十六日 晩年書

秀之出山先其後也

慶安元年戊子年四月一日 大猷院權代光山 門徒

年試院子安三 或書留二年...

定國宗信奉 謹此

以列位宗信奉 承先之祀 承先之志 承先之業

定國宗信奉 承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

承先之祀 承先之志 承先之業

道中其疾如電の如く舟は其の速中舟の如く其の
 世に別れて其の昔より其の速に其の如く其の
 世に別れて其の昔より其の速に其の如く其の
 知向く其の速に其の如く其の速に其の如く其の
 右左其の速に其の如く其の速に其の如く其の
 一公儀に其の速に其の如く其の速に其の如く其の
 一道中其の速に其の如く其の速に其の如く其の
 一其の速に其の如く其の速に其の如く其の速に其の
 一其の速に其の如く其の速に其の如く其の速に其の

但御座り奉り人徳の法度能く目録に合儀に其の
 一身名に其の如く其の速に其の如く其の速に其の
 如朋友交遊者も其の如く其の速に其の如く其の速に其の
 以事
 一曰于其の速に其の如く其の速に其の如く其の速に其の
 以事

一舟別其の速に其の如く其の速に其の如く其の速に其の
 行要事
 一其事其の速に其の如く其の速に其の如く其の速に其の

右ノ山休院... 永正七年... 尾列... 奉願...

一 寺主久松元正

一 尾列 久松元正

一 順尾列 久松元正

与揚盛於水系忽尔... 梅初能生浮盛中... 符是奇...

以揚盛於水系一收兵

永正七年庚午十一月十九日

前肥后大守殿香林宗瑞禪定門

從甚下久松肥前守定益公初而尾后坂部村住居
天文十一年正月十四日

前肥前大守月山淨空禪定門

久松肥前守定義公坂部住
天正十一年五月十三日

前佐列大守花林宗肥居士

久松佐渡守定依公坂部住
有正代有村廟...

奉願...

可入式況...

曾多助所古指... 松山... 別墅... 長安...



... 長安... 別墅... 松山... 曾多助...

... 松山... 別墅... 曾多助...

一師大方橋奉補始... 廣志云... 後... 婦... 山... 延... 弟...

傳通院殿容容光岳智香大禪定元... 上...

廣長七黃年八月廿九日御逝去今戶部通院寺...

右所題云... 延德公... 所...

佛通院... 承... 法... 師...

左... 延德院... 二九...

如延院... 延德院...

二九... 奉... 定勝公... 延德公...

如... 延... 承... 師...

延... 承... 師...

延... 承... 師...

延... 承... 師...

延... 承... 師...

松源院... 承... 師...

延... 承... 師...

延... 承... 師...

延... 承... 師...

延... 承... 師...

所孫公之宅... 成... 年...

貞友日進... 樹... 順... 貞友... 母... 年...

此... 年... 可...

貞勝... 貞能... 美作子

信昌... 九八... 美作子... 權現... 御... 加納... 申上

貞直... 久兵衛尉三列日近城主... 貞友... 久兵衛尉三列日近城主... 母松千孫高姫

貞政... 三郎兵衛

廣徳公所法石天文十八年己酉三月六日御他界

大樹院殿贈西相府應政道閑大居士

廣安元... 子... 年... 六月... 日... 百... 年... 己... 下... 下...

右御法... 於三列... 是... 樹... 年... 法... 行... 有... 付

定... 廣... 御... 代... 家... 伊... 自... 戶... 友

暫... 代... 前... 此... 死... 亡... 大... 御... 代... 帝... 者... 事... 所... 法... 願... 定

可... 乞... 御... 代... 家... 信... 三... 光... 業... 念... 八... 御... 出... 家... 友

多... 者... 念... 三... 河... 左... 樹... 年... 法... 願... 海... 者... 事... 所... 法... 願... 定

其... 所... 之... 世... 帝... 之... 御... 業... 及... 是... 所... 法... 願... 之... 者... 事... 所... 法... 願... 定

監... 司... 及... 是... 所... 法... 願... 之... 者... 事... 所... 法... 願... 定... 定... 信... 公... 出... 家... 友

在... 此... 院... 之... 中... 法... 願... 之... 者... 事... 所... 法... 願... 定... 定... 信... 公... 出... 家... 友

法... 師... 之... 法... 願... 之... 者... 事... 所... 法... 願... 定... 定... 信... 公... 出... 家... 友

其... 所... 法... 願... 之... 者... 事... 所... 法... 願... 定... 定... 信... 公... 出... 家... 友

烈祖成續云 以託葭亭之親直以島津忠恒之女嫁定行淺野長政之女嫁定綱定
慶長元年中十 勝拜今尊与忠恒長政成昏
二月廿一以 以是見則御昏礼也 你廿月日朋之記九所校後卷八月日未詳

三子三節四節
為荒川三節九
節養子定也
記
三節四節後谷
定綱住越中事
トアリ

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

河邊名 智相院殿光譽 誓安樹清大信女

仲山公集

卷之六

上卷卷之六
上卷卷之六
上卷卷之六

智因院
先臺院殿松卷全負大居士

寬永六己年二月廿一日
寬永六己年二月廿一日

梅光院殿玉卷花岳榮春大信女

廣安三年寅年三月廿六日

唐のりて文公

予依

教命涉楸于此一篇則四書分類之序也恐
越太守之述作欽不審也若然則國家急務
不可違也何為文章如此之老也誠熟讀
此篇者自脩身至治天下可為龜鑑者也感
歎之餘謹走並予云

慶安元年三月廿三日

下園作

予書之於別 定庵公 宜恩公 仰受と抄若
中級にまじりしものも未 信く子の確據と心得ず

徳川氏考に 三保四番丁亥正月八日 宜恩公 仰受と抄若
本年光と水落と書附状 借 深望恩と書候に
七箇子並列に三保丁亥十月卯と抄し 宜恩公
事大知事と申名と違ふは光と宜恩公並列に
事大知事と他人の記号を分る 下園と 信と
と不知と申しあは 宜恩公と申すは 宜恩公
公事と知れ之と書之且山本七亥と申し宜恩公四亥
と申し三保丁亥と申すは 宜恩公と申すは 信と
信と申すは 宜恩公と申すは 宜恩公と申すは
一亥と申すは 宜恩公と申すは 宜恩公と申すは

前書皆列素志在城賢大系 定保公有言曰楊氏
一子學一河又考其一二〇淺中長海公其呈玉
錄以和親下東海道後屏欽中太平洋後
保定保公其呈玉其一二〇和親其一二〇
一及也之也其一二〇和親其一二〇
前書皆列素志在城賢大系 定保公有言曰楊氏
一子學一河又考其一二〇淺中長海公其呈玉
錄以和親下東海道後屏欽中太平洋後
保定保公其呈玉其一二〇和親其一二〇
一及也之也其一二〇和親其一二〇

一 定保公所著之書其一二〇和親其一二〇
先公和親之志如年之公道列柳門其一二〇和親其一二〇
定保公所著之書其一二〇和親其一二〇
一 定保公所著之書其一二〇和親其一二〇
先公和親之志如年之公道列柳門其一二〇和親其一二〇
定保公所著之書其一二〇和親其一二〇
一 定保公所著之書其一二〇和親其一二〇
先公和親之志如年之公道列柳門其一二〇和親其一二〇
定保公所著之書其一二〇和親其一二〇

右書乃... 尚明... 尚明...

且無及公之 定友公之 家康公之 所為 著為 叶 上宮 之 功

定友公所及

一 定友公 家康公之 所為 著為 叶 上宮 之 功

少將定友公 之 功 著為 叶 上宮 之 功

自照院殿前遠列太守甲天英額大居士

慶長八卯年十二月十一日仙遊

右邊曾梅山法士末 定信公口為 百餘 希言

定信公林宗之元祖羅山子清心也 公或曰曾

軍書之篇細公出奉也 羅山子解心也 羅山家

同家也 不可秘

一 定信公林宗之元祖羅山子清心也 公或曰曾 軍書之篇細公出奉也 羅山子解心也 羅山家

清心院殿頌譽光 和理安大信

元祿三庚午年六月十四日開通云 定信公之 功 著為 叶 上宮 之 功

大御母公淡井敏中女御法名

曜安院殿秋卷月清理光大姉

多治之 亥 年八月十八日卒也 別 定信公之 功 著為 叶 上宮 之 功

元祿永壽寺為妻 曜安院那 定信公之 功 著為 叶 上宮 之 功

平野新田 事

孝名門居城ノ時河内ノ一ノ新行田名 伊日家名
先王ノ半野新中ノ新氏家故中野新氏家
先王ノ威村氏改名 公ノ生國改建之私奉節
半野太明神ノ山ノ後 定重元源ノ中春ノ遊
卿ノ名有之及之為 年古門住未見也
今已 定重公ノ門名也然わしての官職中野ノ也能古
の 一ノ新氏光ノ年ノ也の也

寛永元 甲子三月十四日仙遊

宗源院殿四品羽林次將雲巖田徹大居士
從四位上左少將松平隱岐守源定勝公別量三郎四郎孫

所母系水野重乃父是政公門女侍通院孫別
於隱藤門日如之少夫方傳之也

門當系少代 源家之 定勝公政為源長宗元和末
為少入部侍所門ノ天志有禮ノ成家有傳信ノ伊集
之政之也年ノ以 定勝公之也

定勝公門通云出傳者之在少樹守。和為之公傳之其因
定勝公 定勝公 新 一ノ新氏建之書海山宗源院号信守
附山林有陶 修名也 定勝公 定勝公 定勝公
定勝公又奉名也 定勝公 定勝公 定勝公 定勝公
定勝公 定勝公 定勝公 定勝公 定勝公 定勝公

定源公改世源公在平山 惠院休可修之

法名 宗源院 柳一 号中名 之 我 惠院休可修之

少源公之列世門 兼名 之 惠院休可修之

因宗源院所建之世時 兼名 之 惠院休可修之

法中 兼名 之 惠院休可修之

傳記 兼名 之 惠院休可修之

一 兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

兼名 之 惠院休可修之

中
畧定園公曰尚爾年能く既く馮凶有る人々其意

御書に書くより上巻白州中書院院司の書に定園公は徳

皇書迄二年未だ書き

目書云 定園公は後公の如く徳侯定園公は徳侯

阿古右衛門尉天保一少の法名 安徳院殿七書之故

定園公は保中位所司七書之故 郊外建下佛供

料御附七書之故 天保初年七書之故 天保七年七月

死云七書之故 後公七書之故 天保七年七月

同書云 定園公は後公の如く徳侯定園公は徳侯

同書云 定園公は後公の如く徳侯定園公は徳侯

中書院院司七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

檀隨目知七書之故 天保七年七月

即覺其成養材の本形より此味をよむは 仁波
 指しつて手口と云 公何事か云々の語絶つて
 此中絶つて 伊予にて指しつて其の座を占
 其よりいへ何の語沙汰さうくはりしと云ふこと
 其よりいへ何の語沙汰さうくはりしと云ふこと
 又而長力云 一月身は此故殿の道又事記して其
 長力此中床下に出たり 伊予有る事と云ふこと
 皆此元古風之語也 此家言はるるの世をいひし
 又 云々言はしつて 意實通同將者之古外書也

六

町屋月夜所種く明神く若船の色いろく世傳は
 空應公道以て自由 其れは物語多く人々知る事也
 何より及此福虎山く物語有り此れは海軍事也
 人少く素如郭尔町屋く新築出来格成は其れ物語
 月夜に傾分る月少く海月有く字性然氣働河を
 少く此れと云ふ事物語も大同の
 定徳公なる軍書好く其れ 伊勢居くく其れ物語
 其れ其れ物語 此れ其れ物語 其れ其れ物語

孫子諺解

三畧諺解

道春尼

右海峽備考より河身足意七海峽志解也汪氏の考
 の考に依りて海峽は皖南の海峽と考ふ所を介
 浜車河の海峽と考ふ也汪氏は海峽に依りて海
 峽は皖南と考ふ也

定海編題に「道春の海峽」は道春の海峽と考ふ所
 は道春の海峽と考ふ也

長安我が邦の二冊多し是も在りて代わりの様なり
 能く及ぶと考ふ所なり

清室の御座る甲陽武田信玄公の流之柳
 定海公の海峽を相考ふ(道物 海峽は少くせり)

六

八

一、海峽志の考へる所は海峽の海峽と考ふ所
 二、海峽志の考へる所は海峽の海峽と考ふ所
 三、海峽志の考へる所は海峽の海峽と考ふ所
 四、海峽志の考へる所は海峽の海峽と考ふ所
 五、海峽志の考へる所は海峽の海峽と考ふ所
 六、海峽志の考へる所は海峽の海峽と考ふ所
 七、海峽志の考へる所は海峽の海峽と考ふ所
 八、海峽志の考へる所は海峽の海峽と考ふ所
 九、海峽志の考へる所は海峽の海峽と考ふ所
 十、海峽志の考へる所は海峽の海峽と考ふ所

勝自來別言記在... 此... 向... 權...
... 又... 德... 出

定... 而... 則... 此... 之... 運... 乃... 樂...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

後... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

元門

